

香港・マカオ 経済視察報告書

平成29年度の国際交流委員会(古下義隆委員長)の海外視察は香港・マカオに決まり、8月24日から28日の4泊5日の日程で開催されました。

今回のミッションは山本恭弘会頭を団長に辻市長ご夫妻をはじめ総勢30名の方にご参加頂きました。

まず、初日の28日は7時に関空に集合し結団式を行いました。早朝より岸脇名誉会頭・石川副市長・森吉参与にお見送りを頂き、前日の台風の影響が心配されましたが、我々の乗る機材が到着していた為、定刻通りの出発となりました。

香港に到着後、一行は今回のミッションの一つでもあります香港日本人商工会議所を表敬訪問致しました。香港日本人商工会議所は1955年7月に香港日本人倶楽部経済部として出発され、当時は16社のオーナー系日本企業を中心でしたが、1968年には204社まで増加し、その後、急激な日系企業の増加により、組織を整備し会員の要望に応える必要と同時に地元ビジネス団体とも組織として連携を行い、香港と日本の間で経済的な連携を促進する為に1969年に香港日本人商工会議所として正式に設立されました。

現在は西村会頭(三井物産)を筆頭に住友商事やキャノン香港、香港日本通運、みずほ銀行など大手企業を中心に約650社の会員で組織されています。主な行事と致しましては、委員会・部会をはじめ、講演会や視察・見学会の実施の他、会員の親睦会の開催等を行っています。表敬訪問ではまず山本会頭より和泉商工会議所の現状について挨拶をして頂いた後、香港経済のトレンドと日本企業にとっての課題について柳生事務局長より説明をして頂きました。その後、記念品の交換では、和泉市の地場産業であるガラス棒で作った風鈴を贈呈し、香港からは香港市内のガラスで彫ったレプリカを頂きました。最後に全員で記念写真を撮り、有意義な表敬訪問を行う事が出来ました。



香港日本人商工会議所表敬訪問



関西空港 結団式 辻市長挨拶

又、一行は香港視察では欠かすことのできないビクトリアピークから香港の市街を望みました。年々高いビルが建築され香港経済の発展ぶりを垣間見る事が出来ました。夕食の後はオープントップバスに乗り、夜の香港をバスより視察をしました。香港特有のネオンがとても印象的でした。

二日目の午前中は黄大仙と「香港の小京都」といわれる南蓮苑を視察しました。香港は道教の信者が多く、黄大仙はその中でも古くから存在する有名な道教寺院です。金色と赤色が特徴の建物で、その境内には100軒を超す占いブースが並ぶ館があり、五行易、面相、手相、風水と様々な種類の占いがありました。又、南蓮苑は唐の時代

から伝わる伝統的な様式で作られた回遊式庭園です。香港の都会のジャングルにぽっかりと広がる緑豊かな憩いの場で、装飾技巧の凝らされた池や、日本の金閣寺に似た仏閣は京都と間違ふような光景でした。



香港ビクトリアピーク視察

三日目は、香港からマカオに移動しました。マカオでは高速船で約1時間乗船しましたが、現在中国本土から橋を建設中との事で、その橋も船内から見る事が出来ました。マカオに着いて、驚いた事がありました。それは三日前に襲来した台風の被害でした。大きな街路樹が軒並み倒され酷いことになっていました。電力や水の供給も影響を受け、ホテルでは冷房が効きにくくなっているという情報も入ってきました。又、予定していたレストランも水浸しで営業が出来ないなど台風の凄まじさを目の当たりにしました。幸いにも一行は予定通りマカオタワーを視察することができました。このタワーは南湾湖に電波塔として2001年に建設され、高さは東京タワーよりも高い338mで、マカオのランドマークとなっています。223m所には、回転レストランやバンジージャンプやスカイウォークといったアトラクションがあり、人気のスポットとなっており、こんな所でも観光客を楽しませるシステムに驚かされました。



マカオタワーより展望



マカオ市内世界遺産視察

次に、マカオの世界遺産を視察しました。マカオには全部で30箇所の世界遺産がマカオ本島約9.3平方kmの狭い場所に集中しています。まず最初に、マカオで最も有名な聖ポール天主堂跡を訪れました。1582年から1602年にかけて建設されましたが、1835年に火事で崩壊しました。現在は協会の前壁(サファード)と68段の階段だけが残されました。このサファードは「石の説教」と言われるほどに宗教的に意味の深い彫刻がなされています。聖ポール天主堂の側には、神童ナーチャを奉るため1888年に建立されたナーチャ廟と1569年にポルトガル人の居住エリアを守るため築かれた防御壁(旧城壁)も世界遺産に登録されていました。その後、68段の階段を降りて、セドナ広場に向いました。セドナ広場はポルトガル統治時代の名残を色濃く残す美しい波状の石畳が広がり周りの建物と調和してまるでヨーロッパにきた様な風景でした。セドナ広場に面してドミニコ教会や1569年に設立された仁慈堂があります。仁慈堂はポルトガルのレオノール女王が本国で創設した慈善福祉団体です。現在は公証人役場として利用されています。

三日目の夜は、世界最大級のエンターテインメントショー「ザ・ハウス・オブ・ウォーター・ショー」を観劇する予定でしたが、台風の影響で中止となり、その代わりにアメリカ出身のスーパーマジシャン、フランツ・ハラーのイリュージョンマジックショーを観る事になりました。車や人が次々と舞台から消されていくショーは圧巻でした。

四日目は、二日目の台風の影響で外出禁止となり午前中はホテル待機となりました。ようやく午後から台風も遠ざかり危険度を示す台風のカテゴリーが8から3に下がった為、交通機関も再開し、今回の二つ目のミッションであるIRを視察しました。マカオ(澳門)は、香港にほど近く日本からは4時間30分ほどのフライトで行ける位置にあり、16世紀からポルトガルが統治し、1970年代からポルトガルの特別領でした。1999年に中華人民共和国へ返還され、中華人民共和国 マカオ特別行政区となっています。中国本土とつながっている「マカオ半島」と、離島だった「タイパ」と「コロアン」との間を埋め立てた島との間を3本の橋でつながるといふ、ちょっと変わった形状をしていて、全体でも31.3km²ととてもコンパクトなため観光でまわりやすくなっています。この中間の埋め立て地帯は「コタイ」地区と呼ばれ、近年、「IR」施設がいくつも建築されています。IR(Integrated Resort)とは統合型リゾートのことで、ホテル、ショッピングモール、レストラン、コンベンションセンター、劇場、カジノなどが一体となった巨大観光施設で、いわば新しい楽しみ方のできるリゾート地域となっています。日本では、カジノ合法化法案の際にしか使われない用語なので、あまり一般的ではないですが、世界的に見ると各地に巨大なIRが続々と生まれています。そのマカオのIRのなかで、2011年5月に開業した「ギャラクシー・マカオ(Galaxy Macau/澳門銀河)」に、2015年5月、「JWマリオット・ホテル・マカオ」と「ザ・リッツ・カールトン・マカオ」が加わり、約2倍の広さの110万m²まで拡張されました。ホテルはほかに「ホテル・オークラ・マカオ」「バンヤン・ツリー・マカオ」「ギャラクシー・ホテル」「ブロードウェイ・ホテル」の6つがあり、約4000室を擁しています。今回、ホテルオークラマカオの方よりIRについて説明をして頂きました。

前述のように日本では考えられない程の規模でIRが展開されているのに只々驚愕させられました。日本では現在大阪の夢洲にIRの誘致を考えているとの事ですが、やはりこれだけの開発をするからこそ世界中からインバウンドの客を集客できるのだと思いました。同じ作るのであれば中途半端なことをしてはアジアに点在する大規模なIRに負けてしまいますが、これだけの規模のIRが夢洲に建設できるかが問題と思いました。この日の夜は、最後の夜と言う事でさよならパーティーを開催し、参加者一人一人に今回の視察の感想を述べて頂き、大変和やかなパーティーとなりました。

翌日5日目は、帰国と言う事でマカオから再び高速船に乗り香港に戻り、香港国際空港より予定より遅れましたが出発し、全員無事関西国際空港に着きました。

今回は、2つの台風の影響を受けながらも所期の視察の目的であります香港日本人商工会議所の表敬訪問とマカオのIRの視察が出来良かったと思います。大きく発展する香港・マカオを実際に視察する事で参加者各々が感じる所があったのではないのでしょうか。



マカオIR視察